

野の草は春をむかえるために
秋にどんなことをしているだろう

2013年11月13日

黒川理科研究会

永澤義人

1. 1メートルも背の高いヨモギの林の下の土には発芽を待っているタネがいっぱい落ちている。

30年もまえに高橋金三郎さんが

「今あんなに背が高いヨモギの林の下の土には芽をだしたくて待っているタネがいっぱいあるんです。」

「それでそのタネを発芽させるたねにはどうしたらいいかな。」

私たちは いろんな意見を出だした思うのですが

「背の高いヨモギをみな刈り取ってしまえば下の土から小さい芽がいっぱいでくる」

という話し合いになったと思います。

私が入院していて畑の手入れをほとんどしなかったのです。一部はわがおくさんが草をとってはいましたが、永澤さんの畑のほとんどは今年の猛暑でヨモギ、コスモス、ヒエ、などの背の高い雑草がものすごく生えしげりました。

畑にしていたので肥料をたっぷりやっていたので雑草の生育もすごかったのでしょう。

退院して畑を眺めて これは大変だ はやく草取りをしなければと思い

次の日に病院に行き主治医の佐山先生に

「今日から畑仕事をしていいですか」 と聞きました。

佐山先生は

無理をしない程度になるべく体を動かした方が回復がはやいですよ。

畑仕事で体を動かすことはいいことです。

と、こたえてくれました。

次の日から

とにかく早くダイコンのたねをまかなくてないと思い

雑草の林の草をぬきはじめました。

朝5時から 6時まで 夕方 5時から6時までと

がんばりました。

9月1日にダイコンのたねをまきました。

2. 雑草の林のあとはほんとうに小さい雑草の芽が除草した畑いっぱい一面に生えてきた

野の花は11月に発芽するのだろうか

今までも秋にハコベがいっぱい映えてきたのを見たことはあったのですが今回はすごくこのことを感じました。

私の頭のなかには野草が発芽をするのは春なのだという考えがしっかりと入っていたのでしょ。

金三郎さんから話を聞いていても、また若いころに大きい草を除草してそのあとに秋にうんと小さい芽がいっぱいでも、ああ芽がでたね、というくらいしか気にならなかったのでしょうか。

今年はすごいこんな小さい芽がこんなにいっぱいであるのだとあらためてきと想ったわけです。

そこで私の疑問は

1) この幼い芽は何という野草の芽なのだろうか。

1 種類の野草か数種類の野草かな

かつてハコベが一面に生えたこともあったきがするが

2) すべての野草が秋11月に発芽するのだろうか。

3) 野草は秋11月だけでなく春にも夏にも秋にも気温がある程度たかければ発芽するのかな。

4) 背の高いヨモギやコスモスのいままで日光をさえぎっていた体を全部取り去ってしまったから、今までは光があたらなかったのに、下のの土に光があたるようになったのでタネが発芽したのだろうか。

5) 種類によって秋に発芽するものと春に発芽するものといろいろとあるのではないかという疑問

種類によって発芽する時期が違くと日光をあびるのに、植物の生育にいろいろと都合がいいのではないか

などといろいろと考えました。

そしてこの小さいおさない芽が大きくなるのを見ていこうとおもったのです。

わが畑の一部を小さい芽の生えたままにしておこうとおもって畑を掘らないでそのままにしておきました。

もうひとつの疑問はこんなに幼い芽がどれくらい大きい草になるのだろうかという疑問でした。こんなに多くの芽がどれくらいの数が大きくなって花を咲かせてたねをつくるのだろうかということです。

このところは授業で発問にできるとおもいます。

3. 緑いっぱいもう大きくなったかぶもある

1) オオイヌノフグリ (ホシノヒトミ) ごまのはぐさ科

わが畑にはもうホシノヒトミの小さい芽がたくさん生えています。多分11月のはじめあたりに発芽したとおもわれます。かなり大きくなった株もあります。春のはじめに花をさかすのですから 秋にもう芽をだしておかなければまにあわないでしょう。

11月に発芽して弱い秋や冬の日光を使い成長し、春早く花をさかせるのです。

2) ハルジオン きく科

越年草 冬型1年草

ヒメジオンより性質ががん強で、春から夏、秋にかけて咲いた花が熟してできたタネが地面に落ちるとすぐに発芽して根や葉を出し、地面を覆ってしまうほど生命力が強い。

全体にヒメジオンとにているが、茎は中空、茎のは基部が耳型になって茎をだしています。

頭花は直径2センチに近い。舌状花は細く回kじゃまえ開花前に紅色に染まる。頭花は開花前にうつむいてしおれる。これが特徴です。

3) ヒメジオン

1年草～越年草

高さ30から150センチ

6月から10月に茎の先端に花を咲かせる。ハルジオンの花と同じように、まわりに白色の花びらのような舌状花と、そのうちがわの花びらのない筒状花とで1つの花に見える頭状花である。

ハルジオンの茎は中空だがヒメジオンの茎はなかが空洞でなく詰まっている。

ヒメジオンはピンク色をした花はほとんどなく、ピンク色をしていればそれはハルジオンである。

ヒメジオンは葉がさいてたねができてその種が発芽して子孫をふやす。

ハルジオンは冬に土の中に根を残してそこから芽をだすこともできる。

4) ヒメオドリコソウ しそ科

道ばたに生える田じゃ佐10から25センチの越年草

4から5月に花を咲かせて実をじゅくします。タネはその年の秋に発芽します。冬の寒さにじっとたえて春にどんどん成長して体をつくり春に花をさかせるのです。

田中修著 雑草のはなし 見つけ方、たのしみ方 中公新書

ヒメオドリコソウはトランプのスペード形の葉が茎の上部に集まっていて茎の下の方の葉には長い葉柄がある。

春早くから、葉のつけ根に突き出したくちびるのような形をした明るいピンク色

をした花を咲かせる。よく観察すると、筒のようになった先の上唇にあたる花びらは2枚の花びらが合体しており、下唇にあたる花びらは3枚が花びら合体している。

中略

この植物と同じ形の花を咲かせるオドリコソウという草がある。笠をかぶったオドリコに見立ててオドリコソウといわれる。オドリコソウは高さが40～50センチで花も大きく見栄えがする。花の色も白、うすいピンクと紫と多彩である。ヒメオドリコソウは「小さくてかわいい」オドリコソウというのでヒメとつけられたのでしょう。オドリコソウは笹倉山の登山口に5から6月にいくと見ることができます。

このヒメオドリコソウの発芽した芽生えには生きるための巧みな工夫が懲らされている。背丈の小さい植物であるが、葉の並び方にきめ細やかな配慮がある。この植物を上から眺めると、葉っぱがうまく重ならないように生えていることがわかる。新しい葉っぱが出るときには、下の葉っぱを影にしないような位置に出る。下の葉っぱほど葉柄が長く面積がひろい、上から眺めると全ての葉っぱが見えるようになっている。ということは全ての葉っぱに太陽の光が当たるということである。

4. 春の七草は春に芽をだすのだろうか。

春の七草は春に発芽するのだろうか。いつは芽をだすのかな

七草かゆといって真冬のまっただなか1月7日の朝におかゆにこの七草をいれて食べるのです。ですから1月7日にはおかゆに入れるくらい大きく成長していなければならぬのです。春の七草は秋に発芽して寒くなる秋から冬にかけて、大きくなるのです。成長たものをお粥に入れるくらい

『せりなずなごぎょうはこべら仏の座　すずなすずしろこれぞ七草』といううたがあります。

春の七草は寒さに強い植物でなければだめなのです。

若菜を摘む袖の上に雪がちらちらとふってくるのです。

百人一首にでてくる平安時代の光孝天皇の

「君がため春の野に出て若菜摘む　わが衣手（ころもで）に雪は降りつつ」

とある　若菜　とはこの春の七草なのです。

1) ハコベ　なでしこ科

どこの道ばたにも田のあぜにも普通に生える草質のやわらかい越年生草本。秋に発生し、根はひげ状である。茎はむらがつて生え、下部は横に伏して上部はななめに立ち、長さ10センチから30センチぐらい。葉は体制でたまごの形をしている。

枝先に多数の白い色の小さい花を咲かせる。がく片は5個、花びらは5個で

がく片とほとんど同じ長さである。おしべは10個で、めしべは卵形でいただきに短い鼻柱が3個ある。ハコベは小鳥がすきで鳥のえさになる。

春の七草 ハコベラといわれる。朝に日光にあると花がさかんに咲く。

春先の永澤のはたけにはこのハコベが地面にすいつくように生えています。春の農作業最初はこのハコベという雑草をとることからはじまります。たいへんな仕事なのです。

2) ナズナ あぶらな科 ペンペン草といわれる。

道ばたや田や畑の畦、あるいは庭のかたすみ等に生えるごくふつうの越年草木 高さ30センチぐらい。全体にまばらな毛がはえている。主根はやせて白色。

地中に垂直に入り、多数の側根を分枝する。茎は直立して分枝し、根生葉は束生してほとんど地面に接している。

春に茎のいただきに長い総状花序を出し、白い小さい花びらが4枚十字にならんでいる花を多数開く。

ナズナの名は「撫ぜたいほどかわいい」という気持ちをこめて「撫ぜ菜」とよばれていてそこから変化したといわれる。

土地の荒れたようすを「ペンペン草が生える」という。我が家の畑はそうである。ナズナはどこにでも生えるという感じがする。

3) セリ セリ科

お正月の雑煮に入れる野菜です。いろんな鍋料理にも使われる。また即席漬けもおいしい。ゆがいておひたしがかおりがたつよくておいしいのです。

お正月の料理につかわれるのですから1月元日にはもう大きくなっていなければならぬのです。我が家の掘にはもうかなり大きくなった「せり」が食べられるのをまっています。湿ったところや溝の中によく生えています。多年生草本です。ふく枝を出してふえる。秋にふく枝の節から新苗を出し、冬をこして春に最も盛んに成長する。夏に直立する30センチぐらいの花茎を出して白い小さい花をさかせる。花びらは5枚で、おしべは5本で1個の下位子房がある。

寒い冬に、ほかの植物があまり生長しないときに少ない太陽の光を吸収して成長する植物もがあるのです。花も咲いている草もあります。

参考文献

田中実著 雑草のはなし 見つけ方、たのしみ方 中公新書
牧野 新日本植物図鑑 北隆館
辺見金三郎 食べられる野草 カラーブックス 保育社